

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670900135
法人名	社会福祉法人 隼仁会
事業所名	グループホーム はやひと
訪問調査日	平成 21 年 7 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 8 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4670900135
法人名	社会福祉法人 隼仁会
事業所名	グループホーム はやひと
所在地	鹿児島県伊佐市大口青木 3023-14 (電 話) 0995-22-2333

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年7月15日 評価確定日 平成21年8月28日

【情報提供票より】(21年5月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 11年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造陸屋根 造り 2 階建ての、 2 階部分
------	----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	— 円
または1日当たり		1380 円		

(4)利用者の概要(5月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	大口温泉リハビリテーション病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはやひとは、平成11年に、県内でいち早く開設され、今年10年目のグループホームである。同じ敷地内に医療施設・介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・ケアハウスなどが設立されているため、利用者の介護状態に合った施設に入所できると、利用者本人・家族は安心して生活している。グループホームの利用者は、介護度が低く共同生活に適した方々が多く、利用者一人ひとりが、その人らしく生き活きと生活し、職員と一緒に喜怒哀楽を共にできる、理想的なグループホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価の結果を職員・運営推進会議で報告している。改善点がなかった為具体的な取り組みはなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員一人ひとりに書き込んでもらい、全員でつくりあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	毎回、市職員・家族代表・有識者・民生委員が参加して、二ヶ月ごとに開催されている。事業所の情報報告をおこない、意見交換をしている。地域の行事などの情報を頂き交流に役立っている。運営推進会議の内容報告を法人の広報誌「隼仁」に掲載して公表している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会・運営推進会議・家族の面会時・ケアプラン作成時に、意見・要望を聞く機会を設けている。家族からの情報・伝達は、ミーティングや申し送りノートで職員に報告し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事への参加・老人会のグランドゴルフの見学・小学生との交流をしている。グループホームの一階の玄関の掲示の工夫をして、地元の人々が立ち寄りやすくなるように工夫され、事業所を交流の場として使ってもらい、地元の方々の訪問が多くなるように期待します。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時からの理念に、20年度から「地域の中であなたらしく暮らし続けることを目指します」と付け加え、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミニミーティング時に、理念を唱和している。職員は、利用者の地域のつながりを大切にして、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への参加・老人会のグランドゴルフの見学・小学生との交流をしている。母体の医療法人の敷地内にあり、グループホームの掲示は、看板だけであり、地元の人々の訪問が少ない。	○	グループホームの一階の玄関の掲示の工夫をして、地元の人々が立ち寄りやすくなるように工夫され、事業所を交流の場として使ってもらい、地元の方々の訪問が多くなるように期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員一人ひとりに書き込んでもらい、全員でつくりあげている。昨年の外部評価の結果を職員・運営推進会議で報告している。改善点がなかった為具体的な取り組みはなかった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、市職員・家族代表・有識者・民生委員が参加して、二ヶ月ごとに開催されている。事業所の情報報告をおこない、意見交換をしている。地域の行事などの情報を頂き交流に役立っている。運営推進会議の内容報告を法人の広報誌「隼仁」に掲載して公表している。		

鹿児島県 グループホーム はやひと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成18年度から3ヶ月ごとに、地域密着型サービス連絡会が開催され、行政からの連絡事項・グループホームの報告・勉強会など市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時・電話で必要に応じて家族へ報告をしている。3ヶ月ごとに、体温・血圧・食欲の変化・睡眠の状態・体重の変化・利用者の暮らしぶりなど、状況報告をしている。家族会の時に、口頭で事業所の出来事・職員の異動を報告している。金銭管理は、入金時に家族に報告し、サインをもらっている。	○	家族会に参加されなかった家族には、事業所の出来事・職員の異動の報告がなされていないので、個人の状況報告の際にでも書面で報告されることを望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議・家族の面会時・ケアプラン作成時に、意見・要望を聞く機会を設けている。家族からの情報・伝達は、ミーティングや申し送りノートで職員に報告し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、最小限に抑えるようにしている。職員の経験歴に応じて、引継ぎ期間を2週間程確保し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・グループホーム単独の研修計画があり、職員の受ける機会を確保している。法人外の研修は、参加者が復命書と資料を提出し、ミーティングで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と地域密着型サービス連絡会を実施して、勉強会・交流会をしている。	○	職員が、他のグループホームとの相互訪問の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、見学や、雰囲気を感じて頂く為に昼間体験する機会を設けたり、職員が事前訪問をすることで、本人が安心して、納得した上でサービスを開始している。入居時は、徐々に馴染めるように自宅訪問・墓参り・家族の面会等を多くするなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、毎日の食事の準備・おやつ作り・らっきょう漬け・梅干作りなど利用者と一緒に作りながら支えあう関係を築いている。菜園で利用者と一緒にスイカ・芋を作り、成長を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、利用者や家族から話をよく聞き、思いや意向を把握して、情報をミーティングで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時を利用して、家族同席で担当者会議を行い、本人の希望・家族の希望・職員の気づき・意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、職員担当者が評価を行い、介護計画に活かしている。状態の変化が見られた場合は、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望により、外来受診・他科受診への受診支援、医療連携体制を活用した健康管理など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医になっている。専門医受診を希望する時は、主治医が専門医へ紹介して対応して、適切な医療をうけられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護に関する指針を利用開始時に説明している。重度化した場合は、本人・家族の希望を聞き、主治医と話し合い、法人内の他の施設利用など検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人研修で個人情報保護法・守秘義務の徹底について勉強している。記録物は、鍵のかかる机に保管している。職員は、不適切な言葉掛けをしないように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況を職員は共有し、一人ひとりのペースを大切にして、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		

鹿児島県 グループホーム はやひと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの一連の作業を利用者の力を活かしながら、職員と一緒にやっている。楽しく会話しながら、職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉を利用した浴室である。希望があれば毎日の入浴も可能である。羞恥心の配慮に心がけ、一人ずつゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理・活け花・詩吟・野菜作り・計算など利用者の生活歴や力を活かし張り合いや喜びに繋がるように支援している。二階での生活のため、出来るだけ戸外へ散歩・ドライブと出かけて、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活の拠点が二階のため、出来るだけ散歩・ドライブと出かけている。山野の同法人のホームの農園へ 芋・スイカなど野菜作りに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階が玄関二階が居室スペースである。二階のエレベーターへの出入りにチャイムセンサーを設置しているが、職員は利用者一人ひとりの行動を把握して、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年間に法人で(4回)グループホームで(4回)夜間想定・日勤想定 of 模擬訓練を実施している。非常食などは法人で備蓄している。		

鹿児島県 グループホーム はやひと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、法人の栄養士にアドバイスをもらっている。水分摂取の確認を心がけ、不足がちな方は、職員が支援している。食事摂取状況・体重測定を実施して家族に報告している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、天井が高く二段の窓から光が入り明るく、利用者が活けた花で季節を感じられる。廊下が広く利用者の歩行訓練になっている。利用者は、日中はほとんど居間で利用者同士でパズルをしたり、お茶を飲みながら会話を楽しみ、居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・テーブル・タンスは備え付けである。季節の花が飾られ、ソファを置いたり、位牌・家族の写真を持参して、利用者それぞれの部屋ができている。		